

身に付けさせたい力	低学年	中学年	高学年
	<ul style="list-style-type: none"> ○20～40mの距離を蛇行せずに、真っすぐ走る。 ○手タッチやバトンを利用したリレーをする。 ○大きさの異なるボールを投げたり、ボールを蹴ったりする、攻守交代型と攻守分離型の簡単なボールゲームをする。 ○体を動かす楽しさや心地良さを味わいながら、基本的な動きを身に付ける。 ○それぞれの運動の動き方を知り、楽しく運動ができる場や行い方を工夫したり、選んだりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○40～70mの距離を前後に腕を大きく振って、前を見て軽く前傾させて走る。 ○テークオーバーゾーン内で走りながらバトンパスをし、コーナーの内側に軽く体を傾けて走ってリレーをする。 ○基本的なボール操作やボールを持たないときの動きによって、易しいゲームをする。 ○体を動かす楽しさや心地良さを味わいながら、体の基本的な動きを身に付けたり、それらを組み合わせたりする。 ○自己の能力に適した課題をもち、動きを身に付けるための活動を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○50～80mの距離をスタンディングスタートで上体をリラックスさせて走る。 ○リレーではテークオーバーゾーン内で減速の少ないバトンパスをする。 ○簡易化されたゲームで、基本的なボール操作やボールを受けるための動きによって、攻防をする。能力を向上させたり、チームを勝利に導いたりするような声掛けや作戦を立てるようにする。 ○運動の楽しさや喜びに触れ、マット運動では基本的な回転技や倒立技を、跳び箱運動では支持跳び越し技を安定して行う。また鉄棒運動では、基本的な上がり技や支持回転技、下り技を安定して行う。 ○自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫する。



		低学年	中学年	高学年
児童の実態	1年	<p>○体を動かすことが好きな児童が多く、校庭や体育館遊びのある日の朝遊びや休み時間には、ほとんどの児童が校庭や体育館で遊び、体育の授業を楽しみにしている。</p> <p>○一定の力を維持して真っ直ぐ走れる児童もいるが、走りながら曲がっていってしまう児童もいる。</p> <p>○簡単なゲームのきまりを守って楽しむことができる。</p> <p>○マット遊びで、前転がりや肋木を使った逆立ちができる児童が多い。自分で考えて遊びを工夫する児童が多く見られた。</p>	<p>○体育を楽しみにしている児童が多く、体を動かすことが好きな児童が多い一方で、休み時間は室内で過ごそうとする児童もいる。</p> <p>○「リレー」では、走りながらバトンパスをすることやコーナーを走ることを知り、意欲的に練習に取り組んだ。スムーズにバトンパスができる児童が増えたが、個人差がある。</p> <p>○多様な動きの経験に乏しいので、動きのレパートリーが少ない。</p>	<p>○体を動かすことに好む児童が多いが、休み時間に積極的に外で遊ぶことにつながらない児童もいる。体を動かすことは好きでも、うまくできない、苦手というような自信のなさが消極性につながっている。</p> <p>○リレーやゲームの中では、作戦を立てることよりも、個人の能力でなんとかしようとする児童が多く見られる。</p> <p>○ソフトバレーボールでは、積極的に声は掛け合っているものの、どのようにすれば勝てるかなどのアドバイスが少ない。</p>
	2年	<p>○体を動かすことが好きな児童が多く休み時間に、鬼遊びやボール、一輪車等で遊ぶ児童が多い。</p> <p>○声をかけないと外遊びをしようとし、読書や会話など、教室で過ごすことを好む児童も見られる。</p> <p>○新しい動きや遊び方を提示すると、意欲的に取り組む児童が多い。</p> <p>○簡単なゲームでは、きまりを守って楽しむことができる児童が多い反面、苦手な児童もいる。</p>	<p>○体育を楽しみにしている児童が多い。</p> <p>○男子は運動することが好きな児童が多く、休み時間は体を動かして遊んでいる。女子は声をかけないと外に出ない児童も少なくない。</p> <p>○表現の学習に意欲的に取り組み、全身を使って踊る技能は向上した。</p> <p>○自己の能力に合った場を選択したり、動きを工夫したりする経験が少ない。</p> <p>○多様な動きの経験に乏しいので、動きのレパートリーが少ない。</p>	<p>○スタートのタイミングがつかめず、前を向いたまま、スピードを落とさずにバトンパスをすることが十分ではない。</p> <p>○マット運動では、倒立系の技はほとんどの児童が習得しているが、回転系の後転の習得率が低い。</p> <p>○運動のポイントを意識せずに運動してしまうことが多い。「わかる・できる」のつながりを大切に、基礎・基本的な動きを丁寧に指導していく必要がある。</p> <p>○技能面での差が大きいため、児童同士の教え合いを活発化させたり、動きのポイントを明記して意識させて運動に取り組ませたりしていきたい。</p>

低学年	中学年	高学年
<ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな形状のコースを作ったり、スタートの姿勢を変えたりしながらいろいろな走り方を体験させる。 ○折り返しリレー遊びや低い障害物を置いたリレー遊びをし、相手のひらに向けてタッチしたり、筒状や輪のバトンを渡したり受けたりする。 ○大小、形、弾む・弾まないなど、いろいろなボールを使い、つく・転がす・投げる・当てる・捕る・蹴る・止めるなどの多様な動きを経験させる。 ○ゆりかごやかえるの足うちなどの運動遊びに十分に慣れ親しませることで、腕支持や、順次接触といった主運動につながる動きを身に付けさせる。 ○マット遊びや跳び箱遊びでは、複数の場を用意し、自分で場の選択を行う経験を積ませていく。 ○活動ごとにポイントを明確に示す。また、教師が個別に声かけをしたり、ペアやトリオ、グループで見合い、アドバイスしたりするなど、実態に応じた関わり合いの場面を意図的に設定していく。 ○体力向上のため、毎時間最初の5分間を使い、鬼遊びなどの活動を取り入れていく。 ○視聴覚資料や学習環境を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○グループに分かれてバトンパスをしながら競走することで、スタートするタイミングやバトンの渡し方、受け方の感覚をつかませるようにする。 ○スタートについて、いろいろな姿勢から走り出す経験をさせ、スタートラインより重心が前になることに気付けるようにする。 ○児童の実態に合った様々な種類の易しいゲームに取り組みせて、ゲームに合った動きを身に付けるようにする。 ○動きのポイントに合わせた場や技を習得しやすい易しい場を用意し、自己で練習の場を選択できるようにする。 ○ペアやトリオ、グループ活動を多く行うことで、児童同士の見合いや教え合いの場を意図的に設定する。 ○毎時間の授業の中で5分間は、体力向上のための運動を取り入れる。 ○視聴覚資料や学習環境を整備する。自己の動きを客観的に把握したり、作戦を視覚的に捉えたりすることで、技能の向上に生かせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○まずはバトンの受け渡しを止まった状態で確認し、バトンの受け渡し方を身に付ける。また、目印を置いたり、「はい」「GO」の掛け声をかけたりしながら相手との距離をつかむことで、走りながら前を向いて受け取ることができるようにする。 ○器械運動では技を示範したり、学習カードを用意したりして、動きのポイントを理解させる。児童同士の教え合いやコツの紹介といった交流を充実させていく。 ○体づくり運動を行い、スポーツテストの結果から自分の体力の現状を知り、継続的に取り組む時間を確保する。課題の残る基本的な動きについては、練習する時間を計画的に設ける。 ○学習カードを活用した振り返りを行い、運動を通して身についたことや高まったこと、うまくいかなかったことなどについて振り返るようにし、自分なりのめあてを考えるようにする。 ○ペアやトリオ、グループ活動を多く行うことで、児童同士の見合いや教え合いの場を意図的に設定する。 ○毎時間、5分間体力向上のための運動に楽しみながら取り組ませるようにする。 ○視聴覚資料や学習環境を整備し、活用する。